

# 在宅重度障がい児者短期入所等支援事業費補助金

## 【課題】

在宅の医療的ケア(たん吸引、経管栄養等)が必要な重症心身障がい児者が、短期入所事業や日中一時支援事業を利用できる機会を増やしたい。

## 【施策の方向性】

これまでの医療型短期入所事業所に加え、福祉施設への支援を推進し、レスパイトサービスの受け皿の確保を目指す。

## 事業のポイント

- ・特に医療型短期入所事業所（医療機関）が不足している地域を中心に、重症心身障がい児者に対応可能な看護師を配置する福祉事業者が重要な受け皿となっている現状を踏まえ、福祉施設が行う短期入所事業、日中一時支援事業も対象とする。
- ・重症心身障がい児者と同水準の障がいの運動ニューロン疾患患者（筋萎縮性側索硬化症（ALS）、脊髄性筋萎縮症（SMA）等）を受け入れている事業所もあり、対象として明確に位置づける。

事業実施団体

岐阜県（補助事業）

予算額

R2：23,000千円

&lt;期待される効果&gt;

レスパイトサービスの受け皿の確保

## 事業内容

医療的ケアの必要な超重症児者・準超重症児者に対して短期入所・日中一時支援を行った場合に必要となる経費の一部について一定額を補助。

対象機関	医療機関	福祉施設
対象事業	短期入所事業	短期入所事業・日中一時支援事業
対象者	重症心身障がい児者、運動ニューロン疾患患者（筋萎縮性側索硬化症（ALS）、脊髄性筋萎縮症（SMA）等）、遷延性意識障がい児者のうち医療スコアが10点以上の超・準超重症児者	

## 短期入所等利用促進体制整備事業費補助金

・医療的ケアが必要な重症心身障がい児者を受け入れている短期入所事業所で、送迎車両の修繕費用など、利用者の利便性向上に資する取組みに対して補助を行う。

事業実施団体

岐阜県（補助事業）

予算額

R2：1,000千円

### 補助内容

対象事業所	補助対象経費	補助基準額	補助率
短期入所事業所	車両リフトの修繕費など	400千円 以内	1/2

## 重症心身障がい在宅支援センター「みらい」の運営

- ・在宅重症心身障がい児者の家族や関係機関向け相談窓口を整備（H27.4.10開所）。障がい児看護に知見のある看護師を雇用し、常勤1名、非常勤3名で運営。特に医療面からの電話や訪問等による相談対応のほか、必要に応じてサービス調整のための多職種カンファレンス等も実施。
- ・障がい児者の家族が気楽に集まって情報交換する場づくり（H27.2～）や、家族同士をつなぐ機関誌の発行（H27.7～）、メールやホームページを活用した情報提供サービスを実施。
- ・「みらい」のサテライト拠点として、飛騨サテライト（H30.6、飛騨市）、中濃サテライト（H31.4、可児市）、東濃サテライト（H31.4、多治見市）を設置。

相談するところがない、相談支援が機能しない、親同士の交流で救われたなどの声を聞いたことをきっかけに立案。他県の取組も参考に企画。

事業実施団体 県看護協会（委託事業） 予算額 R2：12,000千円

### <令和元年度の実績>

- ・相談件数 243件（電話202件、訪問8件、来所7件、メール26件）（平成30年度：326件）  
サービス利用、就園、進学等に悩む家族、小児在宅に参入したい訪看、医ケアが不安な特支からの相談 など
- ・医療・福祉・教育などのサービス調整カンファレンスの実施 15件
- ・家族交流会 飛騨地区（R1.6:高山市 40人参加） 岐阜地区（R1.7:岐阜市 90人参加）  
東濃地区（R1.10:多治見市 93人参加） 西濃地区（R1.11:大垣市 55人参加）  
中濃地区（R2.3 新型コロナウイルス感染症対策のため中止）
- ・機関誌発行：（H27.7創刊～）第9号発行（R1.7）、第10号発行（R2.1）
- ・小児訪問看護人材育成研修（R2.2.2）



# 医療・福祉人材の育成・確保

医師向け

## 【R2新規】小児在宅医療教育支援センター

- ・岐阜大学医学系研究科に設置。
- ・障がい児者医療学寄附講座が6年間で積み上げた実績やネットワークを引き続き活用し、当講座の実施により見えてきた課題に対応するため、小児在宅医療教育支援センターを設置し、医療的ケアが必要な障がい児者とその家族の在宅生活を支える医療に携わる医療従事者等の人材育成、関係医療機関との連携支援等を図る。

### <主な役割>

- ・関係医療機関からの相談に対応できる窓口の設置
- ・小児患者の在宅移行支援
- ・県下の在宅医療に関わる医療資源の活性化と連携を支援
- ・移行期医療の支援
- ・在宅医療に関する人材育成
- ・障がい児者医療の普及啓発

事業実施団体

岐阜大学（委託事業）

予算額

R2：7,000千円

# 小児等在宅医療個別指導事業

事業実施団体

岐阜県（直轄事業）

予算額

R2：500千円

在宅障がい児家族との直接交流を通じた信頼関係や医師・看護師等支援機関とのパイプを活用して事業を推進

・日頃の関与・支援を通じて重度障がい児者特有のケアに精通した医師、看護師、セラピストの派遣を受け、新たに重度障がい児者の受入れを実施又は利用者の増加を図る医療機関や事業所等が、医療的ケアや介護の方法等について指導を受ける際に要する経費を支援（指導を受ける側の課題や要請に応じて派遣人材を調整）

## 重度障がい児者の在宅生活を支える医療人材

- ・通院先病院主治医
- ・訪問診療医
- ・訪問看護師
- ・理学療法士
- ・作業療法士
- ・言語聴覚士 など

日頃の在宅支援を通じて  
重度障がい児者のケアに  
精通した人材による個別指導

- ・病院・診療所（訪問診療）
- ・訪問看護ステーション
- ・医療型短期入所事業所 など

## ○経験不足に起因する要因

- ⇒ 重度障がい児者に対応できる医師や看護師がいない
- ⇒ 利用者ごとに異なるケアに対応できない
- ⇒ 保護者との関係構築が不安
- ⇒ 医療機関ゆえの福祉事業に対する誤解・認識不足

県

- ・個別指導を行う指導人材の調整・斡旋、オーダーメイド研修の企画・実施など
- ・必要に応じて、受け入れの試行・習熟にご協力いただける利用者についても県が調整・斡旋

## 重症心身障がい児者看護人材育成研修（1）

- 重症心身障がい児者の在宅支援に重点を置き、訪問看護ステーションや特別支援学校と連携した実習を組み込むなど、重症児看護に関する年間約80時間の通年型プログラムによる本格的な専門研修を実施  
(H26年度～R元年度の6ヶ年で計181名修了)

日本重症心身障害福祉協会の重症心身障害看護師研修を参考に、実習重視でアレンジ

事業実施団体 岐阜県看護協会（委託事業）

予算額 R2：4,000千円

### 研修概要（令和2年度）

日程：令和2年9月3日～令和3年3月4日  
(全7日、のべ42時間)

形式：講義（新型コロナウイルス感染症の感染動向により、例年実習を行っていた総合病院、診療所、訪問看護ステーション、特別支援学校、生活介護施設に関するカリキュラムを含む講義）

受講者：38名（病院、訪問看護ステーション、福祉施設、学校の看護師、保健師）



## 重症心身障がい児者看護人材育成研修（2）

- ・重症心身障がい児者看護人材育成研修（1）のフォローアップ研修。
- ・在宅ケアを念頭においた実技を含む実践的な研修を実施。
- ・フォローアップ研修として前年度研修修了者のほか、訪問看護師ステーションの看護師等を対象に、訪問呼吸ケアや訪問口腔ケアに関する研修を実施。

### 令和元年度実績

#### <呼吸介助手技実技講習会>

日程：令和元年9月7日～8日 平成医療短期大学

受講者数：看護師28名

#### 実施内容

- ・講義：呼吸介助手技の基礎及び適応・効果
- ・デモンストレーションと実習：「胸郭運動の確認」と「First touch」の実習、  
「仰臥位、側臥位座位の各姿勢における基本的呼吸介助手技」の実習

在宅障がい児の家庭などを訪問した際に、呼吸リハで体調が良くなり入院が減ったという声を聞いて企画

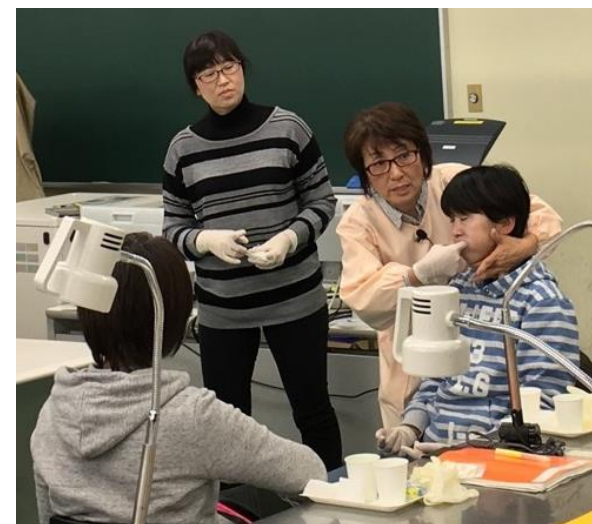
#### <摂食嚥下リハビリ・口腔ケア実技講習会>

日程：令和元年10月27日 朝日大学

受講者数：看護師26名

#### 実施内容

- ・摂食嚥下リハビリ（講義及び実習）  
重心児者の摂食嚥下障害とその評価方法、口腔・嚥下機能評価、食形態の選択と姿勢保持、間接訓練と直接訓練、全身状態と発達の関係
- ・口腔ケア（講義及び実習）  
口腔ケアの基本技術、ケア時のリスク管理、機能を高めるための口腔ケア、ケア時のトラブル対応



## 小児在宅訪問看護人材育成研修 【R2新規】

・医療的ケアを必要とする在宅重度障がい児の看護に携わろうとする訪問看護師等に対して、重度障がい児のケアに必要な知識、技術を習得させ、もって県内の重度障がい児の在宅医療を支える訪問看護人材の育成を図る。

事業実施団体

岐阜県訪問看護ステーション連絡協議会（委託事業）

予算額

R2：300千円

### 研修概要（令和2年度）

日 程：令和3年2月（予定）

対 象 者：訪問看護ステーションに所属する保健師、看護師、准看護師

研修内容

- ・在宅医療的ケア児等の現状と課題
- ・訪問看護における在宅医療的ケア児等支援
- ・在宅医療的ケア児等及びその家族との関わり
- ・支援に関わる多職種との連携と調整



## 小児在宅移行支援看護人材育成研修

- ・NICU等を有する急性期医療機関の主任看護師等を対象に、小児在宅移行支援に必要な知識の習得や、看護力の向上を図るための実践的な研修を実施

事業実施団体

岐阜県看護協会（委託事業）

予算額

R2：2,500千円

### 【令和元年度概要】

- 日程：令和元年8月9日～令和2年1月24日（計6日間）  
3日間：講義（8,9月）  
（講師：埼玉医科大学総合医療センター（埼玉県）田村特任教授、  
ひばりクリニック（栃木県）高橋院長、高知在宅ケア支援センター（高知県）安岡所長等）  
1日間：実習（各圏域の訪問看護事業所）（11月）  
2日間：演習（12,1月）
- 受講者：19名（対象者：NICUやGCUを有する急性期医療機関や小児科病棟で指導的立場にある主任看護師等）
- 研修内容
  - ・医療的ケアが必要な重度障がい児の退院と家族形成支援
  - ・小児在宅移行支援に伴う意思決定支援
  - ・重度障がい児者の成長・発達に必要な保健・医療・福祉制度
  - ・医療的ケアが必要な子どもと家族の生活の場の理解（同行訪問実習）
  - ・小児在宅移行支援（教育支援）プログラムの作成



### 【令和元年度実績】

- 日程：令和元年8月9日～令和2年1月24日（計6日間）
- 受講者：19名

## 小児・障がい児（者）リハビリテーション専門研修

- ・在宅の重症心身障がい児者の家族が今後最も利用したい医療サービスはリハビリ。
- ・しかし、入口となる小児を対象としたリハビリテーションを学んだ理学療法士等が少ないため、病院等においてもなかなか受け入れが進まない現状にある。
- ・このため、受入れマインドの醸成に向けて、小児・障がい児（者）を対象としたリハビリテーションに関する専門研修を実施。

事業実施団体

岐阜県理学療法士会（委託事業）

予算額

R2：500千円

### 【令和元年度実績】

日時：令和2年2月8日～9日

場所：岐阜県総合医療センター

講師：群馬パーズ大学 中徹 教授

受講者数：46名

内容：講義と実技を交えた研修会

『活動と参加と背景因子を中心に』

### 【平成30年度実績】

日時：平成31年2月10日～11日

場所：岐阜県総合医療センター

講師：群馬パーズ大学 中徹 教授

受講者数：41名

内容：講義と実技を交えた研修会

『活動と参加の評価と介入を中心に』



## 医療的ケア児等コーディネーター養成研修

・医療的ケアを要する重度障がい児者等の支援を総合調整するコーディネーターの育成を目的に、相談支援専門員等を対象に、重症心身障がいに関する専門知識や支援のスキルを習得するための研修を実施。

事業実施団体 岐阜県福祉事業団（委託事業）

予算額 R2：1,700千円

### 【令和元年度実績】

日 時：令和2年2月5日、6日、3月5日、6日  
（計4日間：講義2日、演習2日）

場 所：ひまわりの丘事務棟（関市）

受講者数：53名（修了者：47名）

内 容：講義と演習を交えた研修会

- ・重症心身障がい医療の特徴、具体的な医療的ケア等に関する講義
- ・在宅支援関連施設等の理解、医療・福祉・教育の連携等に関する協議
- ・事例をもとにした計画作成等の演習
- ・事例検討、スーパーバイザーによる計画作成指導等の演習



### 【平成30年度実績】

日 時：平成31年2月14日、15日、3月7日、8日  
（計4日間：講義2日、演習2日）

受講者数：36名（修了者：36名）



# 福祉事業所等医療的ケア支援事業費補助金

## 【課題】

・在宅の保護者が挙げる今後利用したい医療サービスとしては、リハビリなどのニーズが高いが、訪問リハビリの利用率が約40%、訪問歯科が約10%に止まるなど、その普及は遅れている。

## 【施策の方向性】

・医療的ケアとされる中でも、口腔ケアや体位変換など専門職でなくても一定程度可能なものがある。  
 ・日中生活支援を行う生活介護事業所等でこうしたケアを行えるようにすることは、機能維持、生活の質の向上の点からも重要。

## 事業内容

医療的ケアの必要な重症心身障がい児者を受け入れている生活介護事業所等が、外部の看護師、理学療法士、歯科衛生士等を活用し、訪問看護や訪問リハビリ、口腔ケア等の機会を提供するとともに、実際のケアを通じて、事業所職員の介護力向上を図る取組みに対し、訪問看護師等の招へいに要する費用の一部を補助。

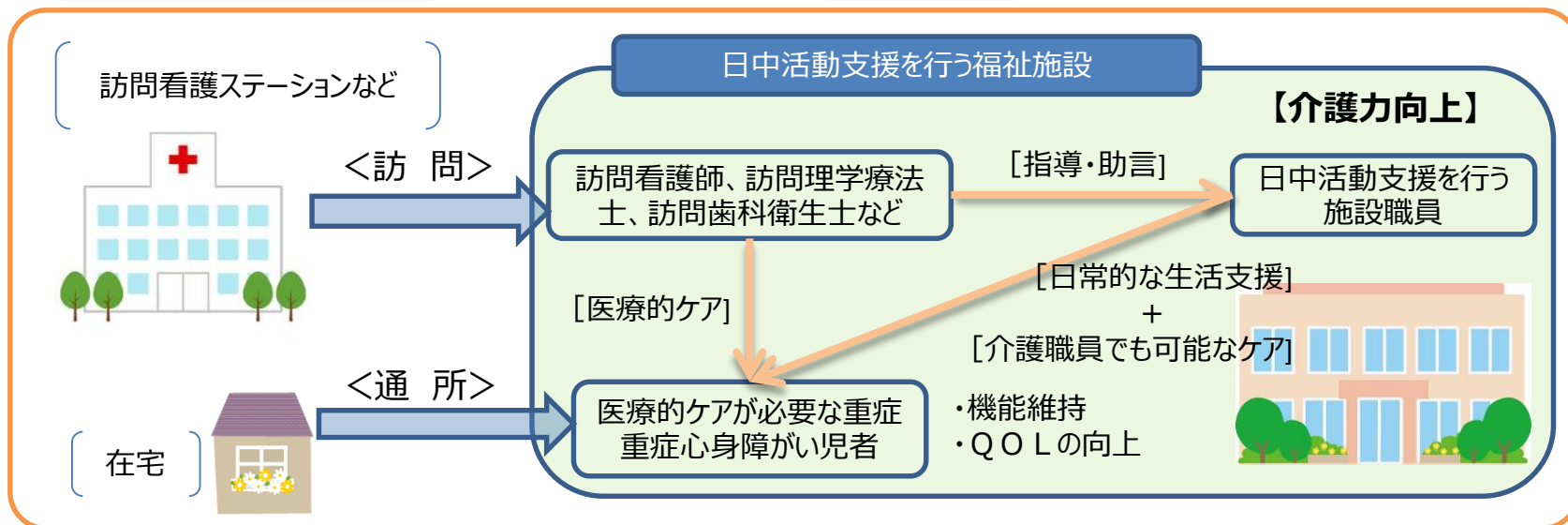
(補助額：派遣費用の標準額の7割相当額8,300円/日)

事業実施団体

岐阜県(補助事業)

予算額

R2：3,000千円



## 喀痰吸引等研修の受講促進支援

### 実施団体

基本研修（研修促進事業）：登録研修機関（委託事業）  
 実地研修（研修補助事業）：登録研修機関（補助事業）

### R2予算額

研修促進事業：2,100千円  
 研修補助事業：500千円

### 施策の方向性

- ・医療人材の育成と並行して、喀痰吸引等研修に要する経費負担の軽減により、医療的ケアに対応できる福祉人材の早期増員を図る。

受講対象者：福祉事業所等に従事している介護職員、保育士等で特定の者（重度障がい者）に対して喀痰吸引等の行為を行う必要があるもの

区 分		支援の仕組み
基本 研修  R元年度 年5回 実施 (定員： 各20名)	講義	◎ <u>喀痰吸引等研修促進事業(H27.10～)</u> ○支援対象：基本研修の受講料 ○支援方法：登録研修機関への委託 ○支援内容：基本研修実施経費 ・基本研修の実施に要する経費を委託により県負担とすることで <b>基本研修の受講料を無料化</b> ・ <b>研修の案内、受講者の募集・決定は県が実施</b>
	演習	
↓	実地 研修	◎ <u>喀痰吸引等研修補助事業(H26.12～)</u> ○支援対象：実地研修の受講料 ○支援方法：登録研修機関への定額補助 ○支援内容：訪問看護師への指導料 ・①、②の各メニューごとに上限1万円 （①+②同時受講の場合は上限2万円） ※指導看護師を自施設で賄った場合は対象外

# 東海三県小児在宅医療研究会

- ・東海三県で、在宅重症児者の支援に携わる方々の顔の見える関係づくりを通じて、相互の知見やノウハウの共有、相互活用を図るため、平成27年3月に第1回目の研究会を岐阜県で開催。
- ・三県の持回りで開催。（第1回岐阜県、第2回三重県、第3回愛知県、第4回岐阜県、第5回三重県、第6回愛知県）

## 【第6回】令和元年度

令和2年2月9日 ウィンクあいち（愛知県名古屋市）

テーマ：小児在宅のこれから、新しい潮流

基調講演：医療法人財団はるたか会 理事長 前田 浩利 先生  
「小児在宅医療の10年、これからの歩むべき道」

参加者：約500名

## 【第5回】平成30年度

平成31年2月17日 NTNシティホール（三重県桑名市）

テーマ：医療的ケアを必要とする子どもの療育・教育の現状と未来

## 【第4回】平成29年度

平成30年2月10日 じゅうろくプラザ（岐阜県岐阜市）

テーマ：地域における小児・障がい児者の在宅支援と今後の展望

## 【第3回】平成28年度

平成29年2月12日 ウィンクあいち（愛知県名古屋市）

テーマ：障害児者の在宅支援と施設の役割

## 【第2回】平成27年度

平成28年2月14日 桑名市市民会館（三重県桑名市）

テーマ：障がい児者の在宅生活を考える

## 【第1回】平成26年度

平成27年3月8日 じゅうろくプラザ（岐阜県岐阜市）

テーマ：東海三県における障がい児者在宅医療の現状と課題



## 岐阜県小児在宅医療研究会

- ・在宅重症心身障がい児者の支援者のすそ野を広げ、相互に顔の見える関係づくりを進めるために開催。
- ・全国の小児在宅医療分野で活躍する講師による講演と県内の関係者による事例発表を実施。
- ・H26年2月に第1回目を開催し、これまでに10回開催。参加者数はのべ約2,500名。家族も多数参加。愛知県、三重県、滋賀県、静岡県等、県外からの参加者も増加中。

事業実施団体 岐阜県（県直轄）

### 【第10回】

令和元年12月8日 岐阜県立看護大学

テーマ：小児在宅医療における地域連携支援、それぞれの役割について

基調講演：奈倉 道明 埼玉医科大学総合医療センター 小児科講師

シンポジウム：岐阜県内の様々な取組み、総合討論

参加者：196名

### 【第9回】

平成30年12月9日 岐阜県立看護大学

テーマ：小児在宅医療における地域連携支援について

基調講演：土畠 智幸 生涯医療クリニックさっぽろ 院長

シンポジウム：岐阜県内の様々な取組み、総合討論

### 【第8回】 ※H29年度は、東海三県研究会として実施

平成30年2月10日 じゅうろくプラザ

テーマ：地域における小児・障がい児者の在宅支援と今後の展望

基調講演：島津 智之 熊本再春荘病院 小児科医長

シンポジウム：東海三県内の様々な取組み、総合討論

小児・障がい児者医療支援施策への取組を目に見える形にすることがもう一つの目的。



# 圏域版小児在宅医療研究会（西濃圏域）

- ・NICU・GCUの看護師等が、地域の保健師や訪問看護師とともに重症児の退院前後に家庭を訪問し、病院と地域の連携による在宅移行支援体制づくりを実証的に研究するモデル事業を実施。
- ・モデル事業の成果は、研究会・事例発表会を開催して広く県下に共有。

事業実施団体

大垣市民病院（委託事業）

予算額

R2：450千円

**【第4回西濃圏域小児在宅医療研究会】** 令和元年度  
令和元年12月15日 大垣市情報工房スィンクホール（大垣市）  
テーマ：災害発生を想定してシミュレーションしよう  
プログラム：講演・グループワーク  
参加者：約50名

**【第3回西濃圏域小児在宅医療研究会】** 平成30年度  
平成31年1月6日 大垣市情報工房スィンクホール（大垣市）  
テーマ：やってみよう 多職種カンファレンス

**【第2回西濃圏域小児在宅医療研究会】** 平成29年度  
平成30年1月6日 大垣市情報工房スィンクホール（大垣市）  
テーマ：学校へ行こう！！ 福祉・教育職の役割をご存知ですか？



## NICU在宅移行支援実証研究事業（H27年度）

【訪問実績】

・対象者数：24名 ・訪問回数：のべ93回

・訪問者

病院：NICU／GCU看護師、医師、理学療法士など

地域：保健所、保健センター保健師、訪問看護ステーション看護師など

・訪問先：大垣市、池田町、揖斐川町、輪之内町、安八町、海津市、瑞穂市、本巣市、大野町、長浜市、小牧市、桑名市 ほか



# 障がい児者支援を考える公開連続講座

- 障がい児者医療に携わる医師、看護師、理学療法士等を講師に、医療・福祉関係者や県民が障がい児者支援を考えるための公開連続講座を平成26年度から開催  
 (平成26年度：全11回、1,293名参加、平成27年度：全8回、1,527名参加、平成28年度：全6回、936名参加、平成29年度：全6回、1,056名参加、平成30年度：全6回、917名参加)
- 令和元年度は、8月から令和2年1月まで毎月1回開催：全6回、参加者のべ984名、68名が全回出席

事業実施団体

岐阜県（直轄事業）

予算額

R2：700千円

## <令和2年度概要>

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、講座を収録し、インターネット動画サイトにて配信する形式で実施

## <プログラム>

- 第1回（12月） 災害時における障がい児者への介護支援 ～求められる日ごろの備え～  
 高野 晃伸氏（中部学院大学短期大学部 社会福祉学科 准教授）
- 第2回（12月） 一人ひとりの子どもの内面に寄り添う支援の在り方  
 松村 齋氏（大垣女子短期大学 幼児教育学科 学科長・教授）
- 第3回（1月） ①成人在宅医が小児在宅を始めるまで／始めてからの3年間  
 ②重心児・医ケア児のための医療型短期入所&メディカルフィットネス「かがやきキャンプ」の紹介  
 市橋 亮一氏（医療法人かがやき 総合在宅医療クリニック 理事長・院長）  
 藪本 保氏（医療法人かがやき かがやきキャンプ 施設長）



## 【R1事業】小児在宅重度障がい児者等（医療的ケア児を含む）実態調査

・県内に在住する在宅の重度障がい児者等（医療的ケア児を含む）の生活実態や支援ニーズを把握し、今後の支援策等の充実にに向けた基礎資料とするため、実態調査を実施する。

事業実施団体 岐阜県看護協会（委託事業）

予算額 R1：4,800千円

### 調査概要

○調査期間：令和元年（2019年）6月1日～令和2年（2020年）2月29日  
（調査時点：令和元年（2019年）6月1日時点）

### ○調査対象者

（1）岐阜県、岐阜市が保有する身体障害者手帳取得者情報と、岐阜県が保有する療育手帳取得者情報をもとに以下の方々を対象とする。

- ① 身体障害者手帳1級又は2級を持つ20歳未満の方
- ② 身体障害者手帳3級、4級、5級、6級又は7級を持つ7歳未満の方
- ③ 療育手帳A1、A2、B1又はB2を持つ7歳未満の方
- ④ 身体障害者手帳1級又は2級（肢体不自由のうち体幹・下肢・移動機能）かつ療育手帳A、A1又はA2を併せ持つ20歳以上の方

（2）岐阜県教育委員会、各特別支援学校が保有する医療的ケアが必要な幼児児童生徒情報をもとに該当するの方々を対象とする。

（3）岐阜県、岐阜市が保有する小児慢性特定疾病の認定情報をもとに該当するの方々を対象とする。

（4）（1）、（2）、（3）の調査対象者と同等の障がいの状態であると考えられる方も対象とする。